

サキミル会議タブロイド

下 関 市 ま ち の 魅 力 再 発 掘 プ ロ ジ ェ ク ト

開 催 レ ポ ー ト

開催概要

日 時： 令和2年11月26日（木） 18:30～21:00

場 所： DREAMSHIP 宙のホール

主 催： 下関市

事務局： YMFG ZONE プラニング 企画： studio-L

参加者データ

参加者数：24名

参加者層：下関市海峡エリアで事業を営んでいる方、市民活動に取り組んでいる方、これからの活動に興味がある方）



第1回「サキミル会議」が開催され、24名もの市民の皆さんが参加されました。本ワークショップは、下関駅周辺から壇之浦・火の山にかけた海峡エリアの“未来（サキ）”をみんなで考える目的で実施され、会議での意見を踏まえてエリアビジョンを策定します。キックオフとなる第1回目では、まずこれまでのまちの魅力再発掘プロジェクトの取り

組み経緯や、市民参加の地域づくりに取り組む山崎亮さんの講演をお聞きするとともに、テーブルごとに現在のエリアビジョンについて意見交換するグループワークが行われました。この通信では、当日の様子や出された意見を紹介していきます。

プログラム

- ◇ 開会あいさつ
- ◇ 本プロジェクトについて
エリアビジョン事業について
サキミル会議について
- ◇ 自己紹介タイム
- ◇ 講演「プロジェクトを知る、参加する」
オンラインゲスト講師：山崎 亮さん
- ◇ 意見交換タイム「エリアビジョン案について」
- ◇ テーブルごとに発表・共有
- ◇ 閉会

開会の挨拶

「本来は今年度の春から始める予定でしたが、コロナウイルス感染拡大の影響でやっとスタートできることになりました。職員と共にこのエリアをどうしていったら良いかじっくり考えてきたビジョン案に、本日皆さんの様々なご意見やアイデアをいただければと思っています。私は下関出身ではありませんが、それ故、海



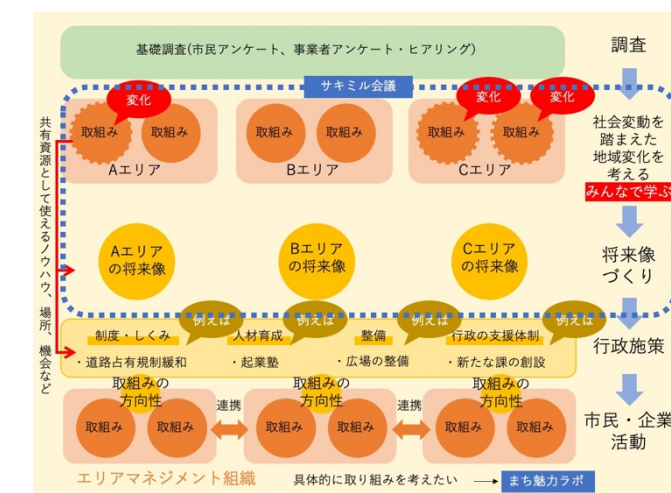
まちの魅力再発掘プロジェクト推進室 リーダー
芳田 直樹副市長

峡エリアの景観の美しさなど、下関市のたくさんの魅力を感じています。ぜひ皆さんにもこのエリアの未来を描いていただき、一緒に実現していくための議論ができればと思います！」

本プロジェクトについて

はじめに YMFGZONE プラニングの蔵重さん、studio-Lの神庭さんより本プロジェクトの説明がありました。本プロジェクトは昨年度実施したまちの魅力を再発掘するワークショップからスタートしました。このワークショップでは、「d design travel WORKSHOP in 下関海峡エリア」号の作成を通して、**海峡エリアの名所や飲食店、お店、宿泊施設、そして下関の人を改めて知ることができました。**今年度は、**エリアの将来像や取り組みの方向性、その実現のための施策、制度などを考えるサキミル会議と、活動をしている人のネットワークを構築し、これからエリアで実現させたい具体的な事業を新たに考える「まち魅力ラボ」の2つの集まりを同時に進めていながら、エリアビジョンの策定を目指します。**サキミル会議は、昨年度の事業や調査からわかった海峡エリアの資源や情報をもとに、市民、事業者、行政

が全5回の会議の中でエリアマネジメントに関する知識を深め、対話を繰り返していきます。また、当日参加ができない人のために動画視聴による参加も設けています。



今回のエリアビジョンの進め方

講演「プロジェクトを知る、参加する」



「対話の中で、皆さんが“実は…”を伝えあい、互いを理解するかがビジョン実現のポイントになるでしょう」

山崎 亮（やまざき りょう）
株式会社 studio-L 代表取締役
慶応義塾大学特別招聘教授。
1973 年愛知県生まれ。大阪府立大学大学院および東京大学大学院修了。博士（工学）。建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005 年に studio-L を設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。主な著書に『コミュニティデザイン（学芸出版社）』『縮充する日本（PHP 新書）』『ケアするまちをデザインする（医学書院）』などがある。

本プロジェクトの説明とウォーミングアップの後、studio-L の代表である山崎亮さんによる講演がありました。テーマは「プロジェクトを知る、参加する」。人口減少といった時代潮流から、まちなかを市民が楽しく使い活動している 2 つの事例についてご紹介いただきました。ここでは講演のポイントをご紹介します。

【時代潮流 -これから日本が迎える未来-】

人口減少時代については様々な影響がありますが、今回のプロジェクトで留意する点は、地域の中で商売を競い合う時代から、地域一丸となって地域外と競い合う時代になってきたということです。時代に即した事業を行うには、地域の理解や協力者が必要です。だからこそ今回は事業者の方々を中心に、地域に何が魅力的か、必要なのか、またお互いの事業や想いを知っていく必要があります。皆さんの中の「実は…」を知り合うことで、新たな事業アイデアや、協働のアイデアが生まれ出てくるかもしれません。下関市でコロナ禍を踏まえた新たな事業が生まれたとなれば、周りから注目されることになるでしょう。

【事例①阿武町「選ばれる町をつくる」プロジェクト（山口県阿武町）】

- ・ 総合戦略の策定を通じた行政や事業者、市民がフラットに繋がった事業
- ・ 策定後、参加者自身が空き家、空き店舗を使った住民や移住希望者などが相談、交流できる場所を作った。その後 5 店舗の開業につながる
- ・ 行政職員、住民、事業者が協力し、町外の若者に声をかけ、起業支援を行なっている



【事例②笠岡市産業振興ビジョン（岡山県笠岡市）】

- ・ 策定の中で、まずは具体的な事業を考え、参加した事業者が連携して社会実験を実施
- ・ 社会実験で得られた、実現へのハードルや課題をビジョンに反映
- ・ 実験を行う中で事業者同士が互いを深く知り合い、協業につながった



【プロジェクトに参加する意義、ポイント】

- ・ これからは地域が一丸となって事業を展開していく時代。そのためには徹底した互いの自己開示が必要
- ・ 他地域の事例も参考にしつつ、「下関市なら…、このメンバーなら」という独自性を大切にする
- ・ 策定のプロセスに参加し、フットワークが軽くなる、仲間と協力したり褒めあったりする関係性を構築することが重要。知識だけではなく経験を持った市民が試しながら改訂していくエリアビジョンが生まれる

自己紹介タイム「コロナ禍での暮らしの変化」

今回はコロナ禍での暮らしの変化を共有する自己紹介を行いました。6 つの質問が書かれたフリップ紙から答えたいものを選び、テレビ番組のように相手にみせながら紹介しあいました。新たな活動を始めた人がいたり、コロナ前より忙しくなったという人がいたり。改めて下関の良さを感じる機会になったという意見も上がりました。



意見交換タイム「エリアビジョン案について」

後半は、現在のエリアビジョンについての意見交換となりました。今回は 3 つのステップで考えていきます。

【ステップ1 キーワードカードをしてみる】

テーブルに、50 個近くのキーワードカードが並べられました。このキーワードはエリアビジョンにまつわる取り組みや制度を表す言葉です。自分が気になるカードを選んで内容を知り、どうして気になったか、下関市に必要なか、やってみたいかなどを話し合いました。「すでに取り組んでいるキーワードがある」など、参加者の取り組みと類似するものもあったようです。



【ステップ2 エリアビジョン案の共有】

まちの魅力再発掘プロジェクト推進室の田中室長より、現在のエリアビジョン案について説明がありました。海峡エリアを 4 つのエリアに分けて各エリアの特徴や資源、そして足りないものをもとにコンセプトを考えたことなどが話されました。



【ステップ3 現在の案についてグループでディスカッション】

共有の後は、テーブルで現在のビジョン案について意見交換をしました。特に①4 つのエリアの「好きなところ」、「足りないところ」について、②各エリアの将来像について、③各エリアの将来像に合いそうな、またはあったらいいなというキーワードカードについて、④4 つのエリア分けについて意見交換をしました。話し合った結果はテーブルの模造紙上にまとめられ、最後に各テーブルから発表がありました。



参加者の感想（アンケートより）

参加された方々の熱量がすごく時間が経つのが早かった／ワークショップも楽しいものと感じました。回数をもっと増やしてほしい／プランだけでなく「実装」「実益」を伴うことを期待／知らなかった下関の魅力をたくさん知ることができました／若者に任せていけないといけない、認識の変化が必要だと感じた／若い方、学生など参加されると面白い意見が聞けると思いました／海峡エリアをどうにかしたいという思いがある